杉戸町立高野台小学校 令和5年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況(成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実した単元計画、指導方法の実践 ○日々の授業において、個人、ペア、グループなど目的に応じた様々な形態で、相手意識をもった学び合い、伝え合いの実践	○学校アンケート(知及び学習に関する項目)【児童・保護者・職員平均93%以上】 ※令和4年度91.2%	A	A	○児童が学びを自分事と捉え、目的意識をもち、主体的に取り組めるようにするために、自分自身の課題を自分自身で把握できるような場面を学習に取り入れていく。 ○個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を引き続き行い、児童の資質・能力を育む。 ○宿題を含む家庭学習は、家庭で着実に見届け、定着を図っていく。 ○サマースクール、学力向上週間を行い、基礎学力向上を図った。 【家庭学習82.4%】	○子供がミニ先生になるなどの授業、子供たちの成長につながっている。 ○個別最適な学びと協働的な学びを充実させるため、丁寧に計画を立て、よく実践している。HPでもその様子がよくわかる。 ○教員が取りこぼされる子供が出ないよう、工夫し、配慮している。教員と子供全体が一体となって、活気のある授業をしていると感じる。 ○宿題は子供自身が計画し、自分のペースで進めてみてはどうか。 ○忙しい中、自主学習に週1回教員がコメントをしてくれて大変ありがたい。 ○小学校で自主学習の定着ができない子は、中学校で苦勞が見られる。小学校で自主学習の大切さを伝えているのは大変すばらしい。 ○保護者の協力が必要。親が学ぶ機会を増やすことがまだまだ必要。 ○家庭環境により学校からの有益なメッセージや方針を受け取れない家庭もあると感じる。学校の伝え方は民間にヒントを得ながら実施するとよい。 ○基礎学力向上に向け、地域住民として今後もう少しでも役に立てたらと思う。 ○読書の取組啓発は継続が必要。図書館利用や読書の様子HPで意図的にアップしてほしい。	
	家庭(地域)と連携した家庭学習・基礎学力の定着	○保護者と学校で協力した上での家庭学習の実施 ○基礎学力定着のためのサマースクール、学力向上週間の実施	○学校アンケート家庭学習【児童・保護者平均85%以上】 ※令和4年度77.7%	B	B	○家庭学習についてはさらなる取組が必要。 ○サマースクール、学力向上週間を行い、基礎学力向上を図った。 【家庭学習82.4%】	○きらりカード、あいさつの向上作戦、あいさつ名人など課題に応じた打ち手が実施できている。掲示の仕方が子供たちに即していて、可視化できるよう工夫されているところがよい。継続して取り組んでいただきたい。 ○校長賞の表彰の様子がHPにあった。内容や活動の様子を周知するとお手本となる。 ○あいさつに差がある。声を出してあいさつをすることやあいさつの大切さを今後も繰り返し指導してもらいたい。あいさつの様子を動画で取り、繰り返し見せてはどうか。 ○期間限定で、朝の登校班の中で順番に大きな声であいさつをするなどの取組をしたが声が出せる子もいるのでは。 ○学校でも家庭でも地域でも子供たちができることをどんどん褒めて、意識を向上させてたい。	
豊かな心	自他ともに大切に、多くの人々と協働していく児童の育成	○全教育活動を通し、自己肯定感、自己有用感、コミュニケーション力、やり抜く力等の非認知能力の育成(きらりカード、ふれあいデー、校長賞等) ○規範意識を高めるとともに、学校内外でもあいさつのできる児童の育成	○学校アンケート(徳に関する項目)【児童・保護者・職員平均93%以上】 ※令和4年度91.3%	B	B	○きらりカードや自分のよさを他者から伝える活動を全学年で共通理解のもと行うことができた。 ○「進んであいさつする」について、課題が残った。引き続き指導を徹底していく。 【徳 86.1%】	○きらりカード、あいさつの向上作戦、あいさつ名人など課題に応じた打ち手が実施できている。掲示の仕方が子供たちに即していて、可視化できるよう工夫されているところがよい。継続して取り組んでいただきたい。 ○校長賞の表彰の様子がHPにあった。内容や活動の様子を周知するとお手本となる。 ○あいさつに差がある。声を出してあいさつをすることやあいさつの大切さを今後も繰り返し指導してもらいたい。あいさつの様子を動画で取り、繰り返し見せてはどうか。 ○期間限定で、朝の登校班の中で順番に大きな声であいさつをするなどの取組をしたが声が出せる子もいるのでは。 ○学校でも家庭でも地域でも子供たちができることをどんどん褒めて、意識を向上させてたい。	
健やかな体	たくましく生き抜く児童の育成	○何事にも根気強く、あきらめずに取り組む児童の育成 ○体育の授業の充実を図り、運動の楽しさを味わわせ、運動好きな児童の育成 ○家庭と連携した規則正しい生活習慣の向上	○学校アンケート(体に関する項目)【児童・保護者・職員平均90%以上】 ※令和4年度85.6%	B	B	○新体力テストの結果は、男子が79.2%、女子が70.8%県平均を上回ったが、「進んで運動する」にはつながっていない。 【体 81.0%】	○新体力テストの結果が男女とも県平均を上回ったことは大変すばらしい。 ○自分の弱い部分をどう改善していったらよいか、目標を立てて取り組んでいくことが必要。 ○長期休暇中の運動啓発も伝えていこうとよい。 ○なわとびだけでなく、「筋肉マッスル君コース(腹筋30回等)」をつくってもおもしろいのでは。 ○外遊びの動画を校内放送で流して子供たちの言葉で外遊びの楽しさを伝えていくとよい。 ○遊び心を取り入れて、運動の機会を増やすとよい。 ○持久走に取り組む、朝マラソンの復活などはどうか。	
学校独自	家庭・地域とともにある学校づくりの推進	○学校の取組を積極的に家庭・地域へ学校だより、HP等で発信・公開 ○学校運営協議会を中心に学校・家庭・地域が協働して子供たちを育む取組の実施	○学校アンケート(全般に関する項目)【保護者・職員平均95%以上】 ※令和4年度96.7% ○HP更新毎日	A	A	○HPや学校だより等で、学校の取組を積極的に発信するとともに、学校運営協議会での内容を、知らせた。 【全般93.6% HP毎日更新】 ○教職員の働き方改革の取組を、保護者、地域へ紹介することはできた。協力体制の構築は、今後も課題である。 ○授業時数・日課表の見直し等、新たな業務改善を図ることができた。在校等時間については今後も削減できるように努める。 【超過時間未達成】	○引き続きHPや学校だより、学級懇談会全体会等で、学校の取組を積極的に配信し、協力体制を築いていく。 ○教員が子供と向き合い、質の高い教育を行っていくための時間を確保するために、教員の業務の見直しを図り、できることは直ちに実施していく。 ・余剰時数、授業時数の削減 ・日課表の見直し ・定例集金方法の変更 ・プール清掃の業者委託 ・学校だより、学校からの通知、アンケートの電子化 ・宿題の実施方法の見直し 等	
	子供たちと向き合い、質の高い教育活動を進めるための働き方改革の実現	○働き方改革への協力体制の構築(保護者・地域へ取組紹介) ○カエル会議実施から考案された業務改善の導入	○学校評価(働き方改革に関する項目)【教職員100%】 ※令和4年度100% ○全教職員超過時間月45時間、年360時間以内	B	B	○引き続きHPや学校だより、学級懇談会全体会等で、学校の取組を積極的に配信し、協力体制を築いていく。 ○教員が子供と向き合い、質の高い教育を行っていくための時間を確保するために、教員の業務の見直しを図り、できることは直ちに実施していく。 ・余剰時数、授業時数の削減 ・日課表の見直し ・定例集金方法の変更 ・プール清掃の業者委託 ・学校だより、学校からの通知、アンケートの電子化 ・宿題の実施方法の見直し 等	○いち早く「すぐー」を取り入れて機能させているところが素晴らしい。 ○HPの更新・説明、写真で様々な教育活動がよく伝えられていた。内容が多岐にわたり昨年以上に充実していた。 ○校長が筆頭に教職員が子供たちにしっかりと目が行っていて、向き合い、寄り添っているように感じる。その中で知徳体の成長が伺える。 ○教員の働き方改革は大切。どんどん進めていく必要があるため、改善策にあるものはとてもよい。また、教員でなくてもできることは他に任せていくとよい。 ○働き方改革をしていくには、家庭・保護者の理解と協力が必要。理解が得られるようHPや学校だよりで発信するとよいのでは。 ○教職員の時間外勤務や業務減により空き時間のコストとつくられる時間で創出できる価値を金額にすれば予算を付けて実施すべき。本協議会や地域・家庭からも動ければと思う。 ○プール清掃については、町予算で支出できるよう働きかけをするとよい。	